

目指す学校像	明るい学校 学びのある学校 きれいな学校 楽しい学校
--------	----------------------------

重点目標	1 シン・GIGAスクール推進による教育指導の一層の水準向上を図る。(学力向上) 2 安全・安心な環境を整備し、希望をはぐくむ教育を推進する。(安心・安全) 3 家庭・地域等との連携を図り、相互理解と信頼のもとに学校教育を推進する。(開かれた学校) 4 一人ひとりの教師力を高めるとともに、機動力のある組織をつくる。(教職員の資質向上)
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価					年度評価		学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価		実施日令和5年2月13日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	(現状) ○令和4年度全国学力・学習状況調査では市の平均に達していない。 ○全国学力・学習状況調査の児童質問紙において「国語の勉強は好きですか」の項目で肯定的回答54.0%、「算数」は肯定的回答64.8%、理科91.9%であり、昨年度より向上した。また、市学習状況調査においても同様の質問で、肯定的回答は学年が上がるにつれ、減少傾向にある。 (課題) ○学習に対する意欲が低く、教師の指示や友達の発表を聞いて理解する力に課題が見られる。分かる授業を通して、達成感を十分に味わわせ、学習意欲を向上させることが課題である。 ○基礎・基本の定着や家庭学習の習慣化が十分に図られていない。また、学習に必要な用具もそろわないことが多く、家庭との連携が大いに必要である。	「分かる喜び・できる喜び」をはぐくむためのICTを活用した授業の充実	①ICTを活用して、自分の考えや意見を他者に認めてもらったり、他者の考えをもとに理解を深めたりする「主体的・対話的な学習活動」を積極的に行う。 ②ベテラン・若手教員が学び合い切磋琢磨する体制を構築し、エバンジェリスト等を中心とした指導方法研修会を月1回以上実施する。	①ICTを活用し、コンテンツを有効活用することで児童の理解力を深め、学校評価該当項目(児童用)で80%以上となったか。 ②全教員が、「わかる授業・楽しい授業」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。	①TeamsやClassnoteなどのMicrosoftのアプリやFrip、Pre-Postなどの様々なコンテンツを積極的に活用することができ、ICTを使用した授業実践も日常的に行うことができた。 ②様々なアプリ・コンテンツを活用した結果、児童一人ひとりが容易に意見や考えを発信することができ、理解を深められた。ICT活用状況調査(児童用)において、96.3%と非常に高い数値を得られた。	A	①様々なコンテンツの活用ができています。しかし、コンテンツの精選や教員間のICT活用の差は少なからずある。ペア研修・事例研修などをさらに積み重ねる必要がある。 ②活用状況調査では非常に高い肯定的回答の数値を得られたが、学力の向上に直結しているとは言い難い。児童主体の学びにするために、効果的に、かつ継続的にICTを活用し、ICT活用と学力向上の相関を分析していく必要がある。
		基礎・基本的事項の定着を図るための体制構築	①学校全体として「話を聞く」態度と技能の向上を図るため、学校課題研究の課題として授業研究に取り組む。 ②家庭学習の習慣化を図り、基礎・基本の定着をさせるため、タブレット端末持ち帰りの日常化を推進する。	①学校評価該当項目で児童・保護者ともに肯定的回答が85%超であったか。 ②家庭学習として、タブレットを活用した課題を週2回以上出すことができたか。	①「話す・聞く力の向上」「ICTの活用」を柱に年間全10回の全体会18回のプロジェクトチームを実施した。柱の達成を目指す為、研究授業を1回、ペア研究授業を7回設け手立て達成に迫った。 ②家庭学習の習慣化を図るため、タブレット端末持ち帰りを実施した。全学年において、週2回以上持ち帰り、課題に取り組んだ。学校評価該当項目では、児童が93.4%、保護者が73%と差が見られた。	①活用は進んでいるが、目的志向で「場面、内容、方法、コンテンツ」を検討した研修を行い、児童の実態に合った活用方法を見出ししていく必要がある。 ②毎日持ち帰りを常態化していく計画が必要である。家庭で取り組むにあたり、共同編集ができた、保護者参加型の課題であったりなどの手立てを工夫することにより、必要感を高め、保護者の関心を高めていく。	
2	(現状) ○令和4年度のいじめ認知件数は6件で、すべて解消することができている。長期欠席児童(コロナ感染症等を除く)は1件である。 ○今年度開校47年目を迎え、校舎内外の施設・設備の老朽化(故障・修繕必要箇所)の増加が進んでいる。 (課題) ○すべての学年において、全教員が積極的ないじめの認知を行い、重大ないじめ事案に発展しないよう、組織的に早期発見、早期対応を行うことが重要である。 ○校舎内外において児童が怪我をする恐れがある修繕箇所(教室等のPタイル)が多数あるにもかかわらず、修繕が進んでいないことが課題である。	安全・安心な教育環境の整備	①危機管理対応マニュアルをもとに、実践的な訓練や研修(傷病者対応訓練や食物アレルギー対応研修など)を重ね、危機管理意識を高めるとともに危機対応能力を向上させる。 ②毎日の校舎、校庭、学校周囲の巡視・点検(月1回の安全点検を含む)により、安全・安心な環境をつくる。	①組織的に円滑かつ確実に対応するための、各種マニュアルの修正及び補足資料を作成することができたか。 ②修繕箇所の発見から対策までを3日以内に実施し、常に施設・設備が安全な状態が保たれているか。	①危機管理マニュアルを基にした訓練や研修を定期的に行うことができた。都度、修正・補足したマニュアルを参照し、様々な危機における教職員の配置を適切に行うことができた。緊急時対応アクションカードを作成し、いつでも・だれでも・どこでも危機対応できるように整備した。 ②安全点検を確実に実施し、修繕箇所がある場合は、即日修繕対応することができた。事故報告ルートが確立されているため、漏れなく修繕し、児童の安全を確保できた。	A	①危機管理マニュアルを用いた研修計画をより充実させ、教職員一人ひとりが内容を把握し、役割認識を徹底すると同時に、マニュアルの確かな活用に向けた、研修内容を工夫する必要がある。 ②学校施設や設備が老朽化しているため、修繕だけでは児童の安全が確保できない箇所も多く見受けられている。引き続き確実な安全点検の実施及び学校施設管理課等関係課所との連携を密に行う。
		「学校は楽しい」を実現し、希望をはぐくむ教育の推進	①共通理解・行動のための教育相談に係る研修を実施し、校内支援体制の強化等、教育相談体制を充実させる。 ②服務に関する研修やスクールロイヤー等を招聘した研修を行い、教職員のリスクマネジメント・クライシスマネジメントの意識を高める。	①学校評価該当項目で、児童・保護者とも肯定的回答90%以上となったか。 ②スクールロイヤー等の外部講師を招聘した研修を1回以上行い、教職員の危機管理意識を高め、学校評価該当項目(教職員用)で肯定的回答90%以上となったか。	①カウンセリングの応用研修を受講教諭や教育相談主任を中心にSC・SSWも出席する研修を実施した。回数は3回であるが、適切に、かつ効果的に実施することができた。学校評価該当項目で児童69.2%、保護者82%であった。 ②小・中合同研修では、「保護者対応」をテーマにスクールロイヤー研修を実施することができた。学校評価該当項目で教職員100%で、リスクマネジメントをはじめとした意識を高めることができた。	①教育相談に関する研修は充実しているが、児童や保護者が気軽に相談ができる場所の整備がより必要である。次年度は、Soraの一むの整備を進めることで、より相談しやすい環境を整えていく。 ②自校の実態に合ったテーマをより明確にし、外部講師を招聘した研修を充実させる。未然防止の意識をより高めるための研修等の必要性がある。	
3	(現状) ○学校運営協議会をにおいて、学校が抱える2つの課題について、熟議を進め、「笑顔であいさつ」「地域の教育力の活用」の具体的な取組の土台を構築することができている。 ○委員を3名追加して委任できたため、新たな視点での意見をもとに、熟議を活発化させることが重要である。 (課題) ○限られた会議の中で、課題克服のための具体策の検討、実施、家庭・地域への周知、フィードバックを計画的に行うことが課題である。 ○学校評価において「笑顔であいさつ」の項目で、学校、子ども、地域と保護者の評価に差異が見られる。	「笑顔であいさつ」を進んで行える明るい学校づくり	①学校運営協議会で十分な熟議を行い、積極的な情報発信により、学校だけでなく、家庭・地域を巻き込んだ活動より充実させる。 ②児童会活動や小中一貫教育での取組や地域との連携を活かし、児童自らが主体的に取り組む素地をつくる。	①学校・家庭・地域が連携したあいさつについての取組を学期1回以上実践し、学校評価該当項目で肯定的回答90%以上となったか。 ②児童会活動内で具体的な取組について話し合う時間を設け、学校評価該当項目で90%以上となったか。	①「笑顔であいさつ」を学校運営協議会で熟議し、あいさつ運動の期間には、中学生だけでなく、近隣の高等学校の生徒やPTAとも連携したあいさつ運動を学期に1回実施し、実施の際には、放送で賞賛する取組をした。学校評価該当項目で95%であった。 ②全校児童が進んであいさつに取り組めるよう児童会活動内で主体的な話し合いが行われ、議論された内容を行いながら活動ができた。学校評価該当項目で93.2%であった。	A	①高等学校とは引き続き連携して取り組む体制を構築していく。保護者や地域と結びついた取組をさらに充実していく。学校運営協議会として具体策を検討・実施し、実践をする。 ②各学級でも取組についての話し合いを充実させ、その集約機関として児童会が機能し、具体的な活動につながるような体制をつくる。また、様々な取組への協力を児童から家庭、地域へと発信できるようにしていく。
		学校・家庭・地域が連携し、ともに育てるオールトクリキの構築	①学校運営協議会を中心に、地域にある教育力を発掘し、みんなで育てる環境(オールトクリキ)を整えるため、徳力版人材活用バンクを充実させる。 ②地域の人材を活用した教育活動を計画・実施し、PDCAに基づき、成果と課題を明らかにする。	①本校の児童の実態等や教職員のニーズに合った人材を発掘し、活用できる人材活用バンクを作成することができたか。 ②地域の人材が活用できる行事や単元等を明示した次年度の教育活動計画を作成できたか。	①教職員からの声を集約し、地域の人材活用が必要である教科、単元で実践できた。防犯ボランティア等の地域の方だけでなく、高等学校や福祉施設とも連携を深めた。 ②地域の人材を活用したことにより、児童にとって理解が深まっただけでなく、意欲の向上にもつながった。年間指導計画内にも記号を付け、明確にした。	①地域人材を活用する機会を増やすとともに、教職員も「地域とともにある学校」の意識を高め、声掛け事例を増やす。 ②年間指導計画に明記することで共通理解を図ることはできたが、教科担任制を踏まえた時間割編成を行う必要がある。	
4	(現状) ○今年度から教科担任制を導入し、複数の教員の様々な視点で児童の指導に当たることができる体制を構築しているところである。 ○日課の変更や会議等を削減することで、教材研究を行う時間を十分に確保している。 (課題) ○児童の実態に応じた学習指導や生徒指導に取り組んでいるが、さらに個別最適化な取組を推進するために教員の資質向上が重要である。	一人ひとりの教師力を高めることと、分かる・できる喜びを味わわせ、児童の自己肯定感を高める教育活動の実践	①各主任への報告・連絡・相談を確実にし、教科等部会や生徒指導委員会、教育相談部会等の議題を事前に全体で共有し協議を充実させる体制をつくる。 ②教育への強い情熱をもち、子どものよさや可能性を伸ばすため、特別活動や人間関係プログラムなどで実践できる内容について教員研修を行い、自己肯定感を高める教育活動を各学級で学期1回以上実践する。	①全教員が、すべての子どものよさや成長を見つけ、認め、共有できる体制のもとで、学校評価該当項目で肯定的回答90%超となったか。 ②特別活動を中心に、各学級で子どもの自己肯定感を高めるための手立てを、すべての教育活動において実践することができたか。	①学校課題研修の取組としてペア研究授業を7回実施し、学級担任だけでなく少人数指導担当者もICTを活用した授業実践を行った。学校評価該当項目では、児童が93.4%、保護者が90.1%であった。 ②特別活動・教育相談主任を中心に、カウンセリング応用研修を受講する教諭が研修会を実施した。各学級ですぐに実践できる事例や活動案を紹介し、特別活動や人間関係プログラムで実践でき、自己肯定感を高める手立てを講じることができた。	A	①教職員のICTスキルに多少の差がみられるため、活用方法を学ぶ研修を充実させる必要がある。ペア研修での実践共有ができたが、ICT活用の視点を取り入れていく。 ②特別活動・教育相談主任を中心に、カウンセリング応用研修を受講する研修は充実できた。さらに、チームの考えとして、全員が中心になれるように、研修の機会を設けるとともに具体的な授業実践紹介をしていく必要がある。

学校運営協議会からの意見・要望・評価等

- 運営協議会や学校公開での授業参観の際、どの学級も積極的にタブレット・プロジェクターの活用をしていた。大変すばらしく思う。
- Wi-Fi環境のない家庭はどうするのか?→本校は0である。もしも新・転入生家庭にWi-Fiがなければ市で無料Wi-Fiルーターを貸出できる。
- 家庭学習の取組に対する保護者と児童の認識のずれを埋めていく手立てが必要になってくる。
- 家庭から持ち帰りタブレットの使用感の問い合わせはあるか。→一部あるが、保護者も使い方が分かってきている。
- 今後もICTの推進に学校をあげて取り組んでいっていただきたいと考えている。

・運営協議会として意見書を提出し、教育長及び教育委員会へ現状を知らせられたこと、また一部早急に対応策を打ち立ててくれたことはよかった。

・子ども達のアンケートから「安心・安全に」学校に通えていることが伺える。これは大変すばらしいこと。今後も続けてほしい。

・この時世、カウンセリング研修はさらに大事にしてほしいと考える。教職員一人ひとりの行動が、共通の理解で行えていることが大事。そうなることを願っている。

・あいさつや言葉の使い方がよくなるようになってきた。継続指導していく必要はある。

・3校合同であいさつ運動を行えることは嬉しい事である。引き続き行っていきたい。

・様々な取組が、オールトクリキとして「保護者・地域」で共にできるようになっていくにはどうすればよいかもっと徹底して考えていきたい。

・防犯ボランティアもあいさつ運動に参加することで、さらに活発にしていきたい。

・ICTを使用した業務改善、カウンセリング研修の充実と合わせて、引き続き、具体的な方策を講じて教職員の資質向上に努めていただきたい。

・教科担任をどのように行っているのか。→複数の目で子ども達を見ることができ、生徒指導的にはよい取組であると考えている。